

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市地球温暖化対策推進会議		
事務局 (担当課)	環境政策課課 電話042-769-8240 (直通)		
開催日時	令和3年5月6日(木) 午前10時00分～11時40分		
開催場所	オンライン会議 (けやき会館2階 職員研修所 中研修室)		
出席者	委員	11人 (別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	8人 (環境共生部長、環境政策課長、外6人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
<u>議 題</u>	<p style="margin-left: 20px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 20px;">2 議 題</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) 地球温暖化対策実行計画実施状況報告書について</p> <p style="margin-left: 40px;">(2) (仮称) さがみはら脱炭素ロードマップの策定について</p> <p style="margin-left: 20px;">3 その他</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

宮崎環境共生部長挨拶の後、次第に従い議事を進行した。

2 議題

(1) 地球温暖化対策実行計画実施状況報告書について

地球温暖化対策実行計画実施状況報告書（令和元年度報告）について、事務局より説明を行った。

(藤倉委員)

P 2 5 の水素ステーション設置について、水素の原料や生産過程によりCO₂排出の有無や量に違いがあり、その由来等によりグリーン・ブルー・グレーなどに区別される。市内にも新たな定置式水素ステーションが設置されているが、ここで使用される水素はどのような由来か。

(事務局)

現在水素ステーションで供給される水素は、化石燃料から取り出されたものを使用しており、生成の過程ではCO₂も排出されていると聞いている。将来的には、太陽光や風力で作られた電気を利用した、水の電気分解により生成される水素を使用する事がベストであると考えている。

(藤倉委員)

P 3 0 のごみ焼却熱の有効利用について、清掃工場の焼却炉の熱を利用し発電を行って工場内の電力を賄っていることや、余剰分を電気事業者に売電をしていることは以前より承知している。ごみ焼却から発生する熱エネルギーを清掃工場の周辺で発電以外に有効利用するような事は行われていないのか。

(事務局)

現在把握している範囲では清掃工場から蒸気を供給し、隣接する温水プールや県の温室で熱利用を行っている取組がある。また、発電された電気の余剰分は売電を行っている。その売電収入の一部は地球温暖化対策推進基金で積立を行い、温暖化対策事業にも役立てられている。

(牛尾委員)

資料2 推進会議からのコメントの中で、「民生家庭部門、民生業務部門では、エネルギー使用量が減少していることから省エネ・創エネの取組が着実に進んでいるものと考えられる。」となっているが、個人的には省エネ・創エネの取組が着実に進んでいるとは感じられない。P 6 の民生家庭部門の欄には「世帯あたりのエ

エネルギー使用量の減少」という記載があるが、この記載の根拠をお示し願いたい。

(事務局)

平成29年度と平成30年度の世帯数を比較すると、本市の世帯数は1.3%増加していること。また、エネルギー需要量の比率で電力1.9%、LPG2.4%の減少がそれぞれみられることから記載した。

(井上委員)

P12の公共施設への太陽光発電設備導入について、公共施設以外への太陽光発電設備の導入状況については把握しているのか。

(事務局)

民間で行われている太陽光発電設備設置の導入状況については直接把握していない。今後の脱炭素社会実現に向けた全市的な取組を行う上では、民間で導入している再エネ発電設備の導入状況についても把握が必要であると考えている。

(田中会長)

P35の事務事業編について、市の事務事業に伴うCO₂の排出状況については、本来であれば市としてCO₂排出量の削減に取り組み、削減目標を達成することが必須であるが、排出量の削減目標を達成できていない状態となっている。この点については推進会議からのコメントで言及していないため、盛り込むべきであるとする。

(事務局)

コメント部分も含め、会議終了後1週間ほど各委員から意見を募ったのち、事務局でコメント案を作成し、委員の皆様にご確認いただきたい。

(2) (仮称) さがみはら脱炭素ロードマップの策定について

(仮称) さがみはら脱炭素ロードマップの策定について、事務局より説明を行った。

(藤倉委員)

主な取組について、CO₂削減に向けては、プラスチックごみ削減は非常に重要だと考える。新型コロナウイルス感染症の拡大で、住宅にいる人が多く、プラスチックごみも増加している。先導的な取組として、プラスチックごみ対策も強調してはどうか。

また、主な取組について、脱炭素型のまちづくりの先導的な取組として、ZEH

の補助金拡充などの記載があるが、補助金だけではなく、建築物の環境性能（脱炭素化）で評価し格付けする手法（CASBEE）のような制度と連動するような施策を検討してみてはどうか。

（田中会長）

主な取組について、住宅や建築物を建てる際の他の施策の権限に踏み込むような取組が必要なのではないか。また、環境影響評価条例などへの反映も検討してはどうか。

（牛尾委員）

資料5の主な取組は、2050年の目標なのか。記載方法を、工夫したほうが良い。

また、主な取組のうち、歩行者・自動車にやさしいまちづくりの推進について、市内においても自転車道の整備が進んでいると感じている。引き続き進めていただきたい。

（加藤委員）

削減目標について、2030年の削減目標だけではなく、施策ごとの削減目標を示したほうが良いのではないか。

（事務局）

施策ごとの削減目標については、今後示される予定の脱炭素社会の実現に向けた国の施策や地球温暖化対策計画の見直しに基づき、市地球温暖化対策計画の改定時に示していく予定である。

（井上委員）

その他について、今年度から、新たに森林政策課が創設され、森林整備促進に力を入れていくと聞いている。脱炭素社会の実現に向けて、森林整備は必要であることから、引き続き取組を進めていただきたい。

（竹内委員）

先導的な取組に、公用車の電動化とあるが、環境面だけではなく、防災対策を踏まえ、蓄電池や充電設備の整備促進も追記してはどうか。

（香川委員）

資料の中で和暦表記と西暦表記が混在している。西暦に統一したほうが、掲げられる2030年、2050年の目標値も含め分かりやすい。

(田中会長)

主な取組について、新型コロナウイルス感染症対策として新しい生活様式への変容が求められているのと同様に、市民が脱炭素型ライフスタイルへの行動変容を行政として強力に進める必要がある。

また、計画の位置づけについて、ロードマップと地球温暖化対策計画との位置づけを明確にする必要がある。

ロードマップは、市の2050年脱炭素化の表明や、国の新たな46%削減目標を踏まえ、現行の地球温暖化対策計画の取組を強化し、国の施策などに基づき、地球温暖化対策計画を改定するまでの中間的なまとめとして整理していることをしっかり明記した方が良い。

相模原市地球温暖化対策推進会議委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田中 充	法政大学 社会学部 教授	会 長	出席
2	藤倉 まなみ	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授		出席
3	安藤 義和	神奈川中央交通東(株) 相模原営業所		出席
4	江成 二郎	一般社団法人相模原市商店連合会		欠席
5	布施 昭愛	相模原商工会議所 中小企業振興部		出席
6	竹内 信義	東京電力パワーグリッド(株) 相模原支社		出席
7	香川 健	東京ガス(株) 神奈川西支店		出席
8	牛尾 良一	相模原市自治会連合会		出席
9	木村 郁子	さがみはら消費者の会		出席
10	井上 義郎	津久井郡森林組合		出席
11	増田 和美	さがみはら地球温暖化対策協議会	副会長	欠席
12	加藤 信男	公募委員		出席
13	増田 健海	公募委員		出席